

山陽女学園中等部・高等部

実施日：令和5年1月19日（木）13：20～15：30

講師：外務省 大臣官房G7広島サミット事務局 主査 佐古 陸也

形式：対面

内容：講座・座談会

参加人数：講座106名 座談会10名

当日の様子



参加者の主な感想

- ・ほかの国と平和を目指しながら海外に行き、世界のため自国のために働いてくれている仕事だとわかった。こうやって私たちが安心安全に過ごさせているのは、世界のために動いてくださっている方がいるからなので感謝の気持ちを忘れずにいたい。
- ・英語が嫌いだった自分が海外に興味を持つことができた。
- ・ウクライナとロシアの戦争でどんなことが自分たちに影響するのかよくわかった。今すぐ戦争を止めて欲しい。自分にもかかわることだからもっと勉強したいと思った。
- ・広島が原爆を経験した県だからこそG7サミットが広島で行われることに大きな意味があると思う。核兵器は断固として使ってはいけないことを伝えられる。そして、広島のことを世界にもっと知ってほしい。
- ・広島出身だからこそ平和について、少し知っているのので、いろいろな人に平和の大切さを伝えていきたい。調和のある対外関係を外務省の方がしているおかげで、私たちはスマホやインターネットを使うことができると知った。
- ・「オイルショック」をきっかけに世界情勢に世界が協力して取り組むことからサミットが始まったことを知って、サミットの大切さを知った。
- ・外交官の方々が直接的ではなく、結果的に日本国民に利益がある形で日本を支えてくださっていることやG7サミットとふつうの会議との違いについてよくわかった。
- ・実際に現地に行ってその現地の食べ物を食べ衣服を身に付け、余談をしながら現地の言葉で会話をするのはすごいと思った。
- ・海外に行って他国の人と交流し、現地の人のお話を聞いて情報を得ることで、友好関係を築く仕事は大変だと感じたが、やりがいを感じるというお話から興味がわいた。
- ・岸田総理が「核兵器による脅しをしたらいけない」というのを世界中に伝えていたと言っていたが、まさにその通りだと感じました。
- ・どこの国にいても「ひろしま」という言葉が通じるのがすごいと感じた。
- ・イラクで”広島通り”という名前がアラビア語で書かれていることに驚いた。とても遠い場所でも私たちと同じように核兵器に対する思いや考えが一緒であることが嬉しい。
- ・5月に行われるG7サミットは広島で行われるため世界平和に対する思いを強く発信してほしい。外交官の方々が入念に準備をしてくださっているので、この会議が成功し、世界平和に繋がってほしい。
- ・言葉の壁を越えて色んな国の人と交流することも素敵だと思った。
- ・外務本省と在外公館の違いや日本以外にもある理由が疑問に思っていたけれど、指示の報告という繋がりが必要だから日本以外にも在外公館という場所があるのだと思った。
- ・講師の方の「いろいろな視点から日本をみることができる、専門的なことを仕事にできる」という話が印象に残った。自分の仕事に対する誇りが見えてとても楽しい授業だった。
- ・話し合いで外国人の方と話す際に外国語が話せて理解できないといけないし、世界経済や貿易、国際情勢について話すには世界の複雑なことを理解しないといけないのかと考えると、自分の苦手な事ばかりでさらにすごいと思ったけれど、話を聞いて興味がわいた。
- ・海外の方々とたくさん触れ合う外交官の方々が、話すことを恐れずたくさん話をするといいと聞き、文化や言語の違いにかかわらず、私も話を積極的にしようと思った。
- ・G7サミットがどんな風にして始まったのか気になっていたけれど、第1回目のサミットが世界経済の混乱も混乱の解決によって開かれたことを知れてよかった。
- ・ロシアのウクライナ侵略により物価高騰について文面やニュースでよく耳にしていたが、なぜなのかを図で分かりやすく説明してくださって理解が深まった。
- ・広島から平和へのメッセージを発信することの大切さについて改めて実感し、私たち高校生も平和への思いをもって今なお続くウクライナ侵攻について他人事だと思わず、戦争と平和について考えていきたいと思った。
- ・私もテレビや新聞のニュースに少しでも興味を持って自分の考えが持てるようにしたい。
- ・講演がなかったら聞けなかった貴重な話がたくさん聞けてとても楽しかった。